



2019年度 付中通信第12号

一斉休校

2020.3.10

高水高等学校附属中学校長 宮本 剛

今日は3月10日、政府は新型コロナウイルス感染症拡大を受け、この事案を「歴史的緊急事態」に指定しました。この指定によって、政府の感染症拡大防止に関する政策決定の議事録が整備され、この度の災厄に対する措置を評価し総括する資料として保管されることになるそうです。

いまだ感染拡大の勢いは衰えを見せず、いつ収束するか見当もつかない状況ですが、私たちは何よりこの「歴史的」という言葉にたじろいでしまいます。

「歴史」という言葉は、一般的に過去を振り返るときに、過去のある事実を意味づけしたり価値づけしたりするときに、思わず使ってしまう言葉だからです。

例えば、「日本史」という歴史の教科書に記載されていることは、今は日本という名称で区切られているこの列島及び周辺の島々に暮らしてきた人々の営みを、政治や経済や文化などといったカテゴリーでくくり、だれかの視点から今を生きる人々が忘れずにいた方がよいと思われる、つまり現在及び未来の生活に役立つと思われる出来事を精選して、それらの因果関係を明らかにしながらまとめたものです。

ですから、「歴史」は常に人を媒介して語られるという宿命を背負っていて、その結果私たちは人によって語られる「歴史」から永久に真実を獲得することはできません。突き詰めると、仮に私たちが10人いれば、今は同じ教科書で勉強していたとしても、いずれ10とおりの歴史を頭の中に築き上げ、生きていくことになります。

人と人とが理解し合えないわけは、この「歴史」を学ぶという観点から本当によく納得がいきます。では、いったい私たちはいつになったら理解し合えるようになるのでしょうか。それは永久に不可能なのでしょうか？

「歴史的緊急事態」とは、実に皮肉な言いぐさです。この度の地球規模の緊急事態を「歴史的」と冠して表現するわけは、この出来事を正確に記述し未来に残すことにあります。しかし、今お話ししてきたように正確というのは、言葉の上だけにすぎません。緊急事態であるという認識すらこの国の民の全員が抱いているかも怪しいものです。だから「歴史的」が「過去を振り返って見てもまねな」という意味を表す修飾語として使われるなら、違和感はないのですが、それが記録されねばならないという、しかもその記録が政策の検証のためにあるということを宣言する言葉だとすると、「歴史的」は限りなく陳腐な言葉に見えてきます。

「緊急事態」が進行する中、人々の不安心理につけ込んだ特殊詐欺事件にため息をつく一方、物流は停滞し、人々の行動は制限され、経済活動そのものが立ち行かなくなりつつあります。特にホテルや飲食業界など観光産業は、中小企業を中心に倒産も相継いでいます。

そうした中、私の住む地域のごく身近な飲食店が、一斉休校によって子どもにご飯を食べさせられなくなった共働き家庭などのために、安価なお弁当を作ったり、値引きをしたりする

ボランティアを始めました。

ちょっとした工夫でできる思いやりの営みは、拾い集めれば世界中で巻き起こっていると思います。

私たちは理解し合えなくても別にかまわないのだと思います。たぶん、「歴史的」な記述の中には収めてもらえないかもしれませんが、思いやりや助け合いの現場の方が人の真実に触れることができるからです。

県内一斉休校 子ども割引など 飲食店支援の輪



子どもには500円に値引いて売る沖繩そばを持つ山根さん

新型コロナウイルス対策の一斉休校を受け、給食がなくなった子ども向けに値段を割り引くなどの飲食店が県内で増えている。「困った時こそ助け合い」と店主らは声をそろえる。

柳井市南町の沖繩料理店「島々」は平日昼、小中高生に沖繩そばとタコライスを通常より220〜350円値引き500円で提供する。2歳児の父でもある店長山根太郎さん(42)は「急な休校で共働き世帯が大変なのはよく分かる。力になりたい」と話す。

山根さんの呼び掛けに若手飲食店が応じ、同市柳井のラーメン店「ぶつとび亭」と田布施町下田布施のうどん店「和遊」も割引で500円メニューを用意。同市柳井のコーヒー店「フジヤマコーヒーロースターズ」は通販の送料を無料にする。各店とも月内は取り組みを続ける。

一方、多くの人が店内に集まらないで済むよう周南市小松原のカフェ「タベルナタベタ？」は21日まで店内飲食をやめ持ち帰り限定に、日替わりでカレー

(堀晋也)